

mFOLFOX6+オプジーボ®

◆ 点滴に使用する薬と点滴時間

- 2時間50分+46時間
- フルオロウラシル①を終了後、インフューザーポンプに調製したフルオロウラシル②につなぎ、46時間点滴を行います。
- 外来ではインフューザーポンプを持ち帰るため、病院での点滴時間は2時間50分です。腫瘍センターの看護師が、自宅で針を抜く方法をお伝えします。

使用する薬	外観	点滴時間
吐き気止め アロキシ®、デカドロン®		15分
オプジーボ® 240 mg		30分
レボホリナート 200 mg/m ²		2時間 (同時に点滴します)
オキサリプラチン 85 mg/m ²		
フルオロウラシル① 400 mg/m ²		5分
フルオロウラシル② 2400 mg/m ²	 インフューザーポンプ	46時間

- 薬の量は、副作用の程度などにより変更されることがあります。
- 点滴時間はあくまで目安であり、時間が前後することがあります。

◆ スケジュール

14日間を1コースとして治療を繰り返します。

◆ 飲み合わせについて

- フルオロウラシルは、下記の薬を投与中および中止後7日以内は、**一緒に使用してはいけません**。一緒に使用した場合、白血球減少、下痢、口内炎などの副作用が強くあらわれるおそれがあります。

商品名（先発名）	一般名
ティーエスワン®	テガフル・ギメラシル・オテラシル

- フルオロウラシルは、**上記以外にも、併用に注意が必要な薬があります**。薬局やドラッグストアで購入した薬も含め、担当の医師や薬剤師に飲み合わせを確認してもらいましょう。

◆ 主な副作用

白血球減少

白血球が減少すると免疫力が低下し、風邪などの感染症にかかりやすくなります。

治療開始1～2週間後に白血球の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

うがい・手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

37.5度を超える発熱時、医師からあらかじめ処方された薬がない方は、病院へご連絡ください。

赤血球減少

貧血になり、めまい、だるさ、動悸、息切れなどの症状があらわれます。治療開始2～4週間頃に低くなります。

必要に応じて、薬で治療したり輸血することがあります。

血小板減少

血液が固まりにくくなり、歯茎からの出血や鼻血が出やすくなります。治療開始1～2週間後に血小板の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

転倒やケガに注意してください。

必要に応じて、輸血することがあります。

【血液検査について】

副作用の確認のために、定期的な血液検査を行います。

◆ 点滴中

下記の赤字の症状があるときは、すぐに医療スタッフへお声かけください。

過敏反応（アレルギー）

寒気、吐き気、頭痛、めまい、発疹、息苦しい

治療開始1～2回目が起きやすいですが、治療を繰り返していても現れることがあります。

血管外漏出

点滴が漏れている、針を刺したところが痛い、熱っぽい、赤く腫れている、違和感がある

◆ 点滴終了後～1週間頃

吐き気・嘔吐・食欲不振

必要に合わせて、吐き気止めでしっかりと予防を行っています。

それでも症状がある場合は、吐き気止めを追加で使うことがあります。水分が摂れないほど吐き気・嘔吐がひどい場合は、ご連絡ください。

便秘

お腹の動きが悪くなり、便が固くなったりお腹がはることがあります。食事や水分摂取、適度な運動でも改善しない場合、下剤を使用します。

末梢神経障害（手や足、のどのしびれ）

急性と蓄積性の末梢神経障害があります。

（急性）点滴時に毎回起こり、冷たいものに触れるとしびれが悪化する特徴があるため、点滴後5日間程度は注意が必要です。

（蓄積性）治療を長く続けると少しずつ悪化し、しびれや痛みが持続するようになります。治療を終えても回復に時間がかかります。

手先をうまく使えずボタンがかけづらい、転倒しやすいなど、日常生活に支障が出る前に、診察時、医師に相談してください。

発疹

皮膚が赤くなる、かゆみが出る場合があります。

刺激の少ない肌着を着用しましょう。塗り薬やかゆみ止めの内服薬を使用することがあります。

治療開始後数日以内に全身に発疹やかゆみが出る、目の粘膜や唇がただれる、発熱を伴う場合などはすぐに病院へ連絡してください。

倦怠感（だるさ）

疲れやすい、気力がない、体が重いなどの症状で、日常生活に支障が出る場合は、診察時に主治医へご相談ください。

◆ 1～2週間頃

下痢

普段より1日4回以上多く排便がある、または1回でも水のような便があるときは、**下痢止めを使用**することがあります。

強い腹痛や発熱を伴う場合、医師から処方された下痢止めで改善しない場合は、ご連絡ください。

口内炎

口の中がヒリヒリする、しみる、痛くなることがあります。

歯みがきやうがいで口の中を清潔に保ち、乾燥を防ぐことが大切です。
また**うがい薬や塗り薬を使用**することがあります。

がまんできない、水分もとれないほどの口の中の痛みがある場合は、病院へご連絡ください。

◆ 2～3週間頃

脱毛

薬の種類によって抜けやすさは異なりますが、1～2か月後にはかなり目立つようになります。

髪の毛以外（まゆ毛、まつ毛など）全身の体毛も同様に抜けます。
治療が終了すると、少しずつですが生えてきます。

◆ 蓄積性の副作用

味覚障害

味を感じにくくなる、塩味を強く感じる、金属味がする、まずく感じるなど味覚に異常が出る場合があります。

色素沈着

皮膚に日焼けのようなしみができる、爪が黒ずむ

● その他の副作用

非常にまれな副作用ですが、万が一赤字の症状がある場合は、すぐに病院へご連絡ください。

間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱

肝機能障害

定期的な血液検査を行います。

白目や皮膚が黄色くなる（黄疸）、ひどいだるさ

オプジーボ®を投与される方へ

免疫異常により全身に様々な症状が起こる可能性があります。
以下は、主な症状と可能性のある副作用です。
症状がある場合は病院へご連絡ください。

発現部位が限られる症状

嘔吐、精神状態の変化
→**脳炎**

かすみ目、まぶしく感じる
視力低下
→**ぶどう膜炎**

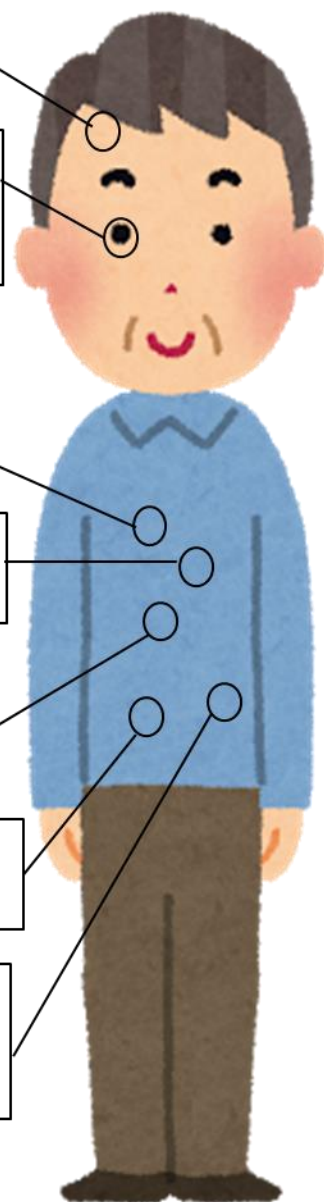
乾いた咳、息苦しさ
息切れ
→**間質性肺炎**

めまい、動悸、意識の低下
→**心臓障害**

皮膚や白目が黄色くなる
→**肝臓障害**

ひどい下痢、血便、黒い便
→**大腸炎**

尿量が減る、血尿が出る
むくむ
→**腎臓障害**



全身に出る可能性のある症状

疲れやすい、体重の増減
いらいらや物忘れしやすい
体がだるい
→**甲状腺、下垂体、副腎などの
内分泌機能異常**

発疹、水ぶくれ、ひどい口内炎
→**重症な皮膚障害**

息苦しさ、手足に力が入らない
ものが二重に見える、筋肉痛
→**重症筋無力症**

のどが乾く、水をよく飲む
だるい
→**1型糖尿病**

皮膚のあざ、
口や鼻から出血しやすい
→**血小板減少症**

運動・感覚まひ
手足のしびれや痛み
→**神経障害**

足のむくみ、痛み、胸痛
→**静脈血栓塞栓症**

甲状腺・下垂体・副腎機能障害

甲状腺や下垂体、副腎はホルモンを分泌して体内の機能を保つ組織です。ホルモン値の変動にあわせて、お薬を使用することがあります。

間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱などが急に現れる、または以前から症状があり、その症状が急に悪くなった場合は病院へご連絡ください。レントゲンで定期的に検査します。

皮疹・皮膚炎、白斑

皮疹がでたり、皮膚が赤くなるまたは白くなることがあります。

症状に応じて飲み薬やぬり薬を使います。

全身への皮疹やかゆみが強い時、またはひどい口内炎やまぶた・目の充血、粘膜のただれ、発熱をとまなう場合は病院へご連絡ください。

下痢・大腸炎

軟便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられることがあります。

血便や黒色便、腹痛を伴う場合は、下痢止めを使用せず病院へご連絡ください。

肝機能障害

肝臓の働きが低下することがあるため、定期的に血液検査を行い、肝臓の働きを確認します。お酒やサプリメント、健康食品でも肝臓の働きが低下することもあります。これらを服用中の方は、主治医に申し出て下さい。白目や皮膚が黄色くなる（黄疸）、ひどいだるさがある場合は、病院へご連絡ください。

腎機能障害

腎臓がうまく働かなくなることがあります。腎臓の働きが悪くなるとお薬が体内から抜けにくくなり、副作用が強くなる場合があります。

尿量の減少、全身のむくみがある場合は、病院へご連絡ください。

重症筋無力症・筋炎

体に力が入らない、まぶたが下がる、筋肉が痛いなどある場合は、病院へご連絡ください。

脳炎・髄膜炎

頭痛、吐き気、意識が薄れる、首を前に曲げにくい場合は、病院へご連絡ください。

糖尿病・糖尿病性ケトアシドーシス

からだのだるい、のどの渇き、尿量が増える場合は、病院へご連絡ください。定期的な尿検査を行いますが、ご自宅でも尿糖検査での自己

チェックをお願いします。

免疫チェックポイント阻害薬における高血糖の早期発見のために

免疫チェックポイント阻害薬は、免疫のしくみ（免疫機能）を利用した治療です。がん細胞を攻撃する作用がある一方で、様々な副作用を認めることがあります。頻度は稀ですが特に、急激に発症する**劇症1型糖尿病**は命に関わる副作用であるため、十分な注意が必要になります。

劇症1型糖尿病の初期症状：上気道炎症状（発熱、咽頭痛など風邪のような症状）
全身倦怠感（しんどい、だるい）
消化器症状（上腹部痛（おなかのいたみ）
吐き気（むかむかする）、嘔吐など）

高血糖の症状：口渇、多飲、多尿、体重減少、全身倦怠感、意識障害

血糖値が高くなっていないかを簡便に知る方法として**尿糖をチェックする方法**があります。尿糖チェックは、手軽に現在の血糖の状態を間接的に知ることができ、糖尿病の発見に大変有用です。そのため、試験紙を購入頂き、自宅で検査していただくことをお勧めしています。

近隣のドラッグストアや薬局、もしくはインターネットで「**新ウリエース®Ga**」を購入してください。30枚入りで990円です。

検査するタイミング

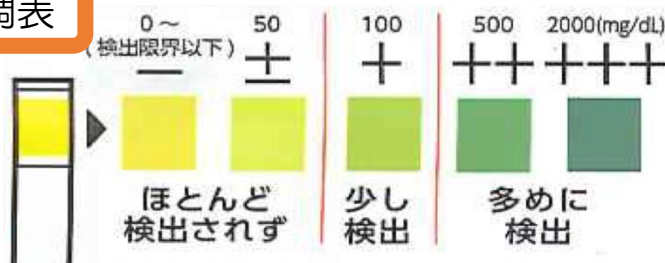
治療開始前（ベースライン）

- 朝起きて、最初の尿

治療開始後 2～3日毎

- 朝起きて、最初の尿
- 倦怠感など通常と違うと感じたとき（随時）

色調表



緑色に変化したら、**要相談!!!!**



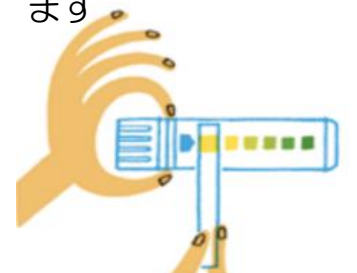
(1) 約1秒間、試験紙に尿をかけます



(2) 30秒後に、色調表と比較して、判定します



(3) 判定後は、そのままトイレに捨てられます



◆ 緊急時の連絡方法

困ったことがあったときは、下記にご連絡ください。

気持ち悪くて水分も摂れない
下痢が止まらない
37.5℃以上の発熱が続いている
薬の使用方法がわからない

など



診察券を用意する

代表：044-977-8111 に電話をかける

平日：8:30-17:00
土曜日：8:30-12:30

腫瘍センター
ナースステーション

夜間帯・休診日
など左記以外の時間

各診療科の当直医

◆ 予約外受診の方法

病院本館正面玄関に入って右手の
「②再診受付」または「予約外受付機」で手続きした後、
各診療科の外来でお待ちください。

※受付時間：平日8:30-11:30 土曜日8:30-11:00

- 生活上の注意については、別冊のパンフレットもご参照ください。
- ご不明な点がある場合は、遠慮なく医療スタッフにお尋ねください。

薬剤師